

西高生らしく、自分らしく、『超越～新たなステージへ～』

教頭 祝 利久

猛暑、酷暑の今夏を経て、田原台を吹き抜ける風にもようやく秋の気配が感じられるようになってきました。2学期制をとる本校では、前期の総まとめの時期を迎えます。

本紙を飾る体育大会、西高祭等の記事。特に今年は「創立60周年記念にふさわしいものに!」という意気込みと、これらの行事を開催できる環境、地域、保護者…支えていただいている全ての方面への感謝の念をベースに、一人一人が自己の最善を尽くし、仲間を信じ・支え合い、限られた時間の中で各クラス・各部・各団が一丸となり、完成度高く自己を表現する姿が見られました。佐世保西高に脈々と受け継がれてきた伝統、そして、それを体現する在校生の感性とエネルギー。「西高生らしさ」と、その持つ可能性を実感させてくれた二大行事でした。

『自分の輪郭を感じられるような高校生活を!』これは前任校で在校生に送ったメッセージです。大人でもなく子どもでもない高校生の時期（青年期）は、自分が他者や社会から認められることへの不安や迷いがつきまといます。加えて、時あたかもコロナ禍。日々のコミュニケーション制限や学校行事の時短・中止が続く中で、「自分らしさ」への肯定感が下がっているのを感じてのことでした。「自分らしさ」を確信するには、自分の存在・役割に対する他者や社会からの承認（「あなたがいてくれるから」「あなたの力があつたから」と認めてもらえているという感覚）が不可欠です。つまり、「自分らしさ」は、その属する社会（集団、環境）の影響を受けて育まれます。とすると、700人ほどが集う佐世保西高というミニ社会（集団）の中で共有される体験やそれに伴う感情（特に、関わった人からの「ありがとう」や「よかったね」などの言葉掛け。分かち合う喜び、感動）は、西高生一人ひとりの「自分らしさ（輪郭づくり）」に大きく影響していると言えるのではないのでしょうか。

『はみ出せ ジブン』——学校紹介パンフレットの表紙用に生徒編集委員会が考案したコピーの一部です。

「はみ出す」の言葉でパツと思ひ浮かべたのは幼児の「ぬい絵」。せっかくの輪郭や境界線をよそに、好きな色からぐいぐいぬっていく…。やがて、成長とともに「はみ出す」ことはなくなっていきます。それは、幼児が認知力と器用さを獲得した証にちがいません。しかし、そうした「きちんとした」絵を見ては、あの大胆な色づかい、生命感をもった筆致の魅力を懐かしみ、再評価したくなるのも事実です。どうやら我々は、成長とともに「はみ出さなくなる・はみ出せなくなる」一面を持ち合わせているようです。だからこそ、上記のコピーはグッと心を掴むのでしょうか。

国語辞典によると【はみ出す】＝「枠の中から外に出る。中に入り切れないで、外へあふれ出る。」の意とあります。おっ、これだ!!と思いました。『はみ出せ ジブン』とは自分の輪郭の外側にいきなり別の・新たな自分の進出を目論むのではなく（もちろん、一定の規範に適合しない「アウトロー」になれというのでもなく）、自他ともに認める「自分らしさ（輪郭線の内側）」を充実させることによって収まり切れなくなった自分がじわりとあふれ出る（輪郭線を越える）ような自己を目指せ、と考えてみてはどうでしょうか。自分の持ち味を信じ、本気で自己を鍛えること。その継続によって「まだ見ぬ先の自分」が現れてきます。

後期に向けて、西高生の持つエネルギーと可能性に期待します。『超越～新たなステージへ～』

創立60周年記念体育大会

今年度の体育大会は昨年度同様に午前・午後の二部構成で実施しました。

開催直前の台風接近による悪天候の心配もありましたが、当日は絶好の体育大会日和となり、創立60周年にふさわしい体育大会となりました。

保護者と一般の皆様にもご来場いただき、生徒たちの一生懸命な姿をお見せすることができました。

【結果】

（総合の部）	優 勝	黄ブロック(3-1, 3-2, 2-3, 2-5, 1-1, 1-4)
（競技の部）	優 勝	黄ブロック
（応援の部）	優秀賞	黄ブロック(3-1・3-2) 赤ブロック(3-5・3-6)
（クラス対抗リレー）	1年1位	男子4組 女子4組
	2年1位	男子1組 女子4組
	3年1位	男子3組 女子6組



《10月の主な行事予定》

9/26	木	前期期末考査(～10/1)
10/4	金	前期終了日
5	土	秋季休業日(～8日)
9	水	後期始業式 後期各種委員任命式 受納式
11	金	大学入学共通テスト99日前集会
15	火	長崎大学講義体験(1年)
18	金	創立60周年記念コンサート(R6 芸術鑑賞会 於;アルカス SASEBO)
24	木	文理別課題研究発表会(2年)



創立60周年記念西高祭

9月7日(土)・8日(日)、創立60周年記念西高祭を開催しました。テーマは「超越～新たなステージへ～」今年度は新たに、舞台の音響や照明を担当するテクニカルチームが発足。また、放送部がステージの出演者や観客の様子を中継し、スクリーンで映し出すという演出も加わりました。これまでとはひと味違うパワーアップした西高祭を目指し、クラス・文化部・生徒会執行部・テクニカルチームのそれぞれが懸命に準備を行い当日を迎えました。

オープニングは、校長先生と3年生による合唱「正解」。校長先生と3年生の美しい歌声が体育館に響き渡りました。スクリーンに映し出された3年生の写真、歌の歌詞、歌声が重なり、とても感動的なステージでした。アートコラボでは、太鼓部の連打、吹奏楽部の演奏に合わせ、美術部の描写と書道部の揮毫が披露されました。続いて有志グループが、人気の韓国グループの音楽に合わせて切れのあるダンスを披露。見る人の目をくぎ付けにしました。ステージ後半は文化部の発表です。放送部の全国大会出場作品、長崎県コンクール金賞の吹奏楽部の演奏をはじめ、佐西文化部の高い文化力・芸術性を感じる素晴らしい発表が続き、充実したステージ発表となりました。

校舎では、各クラスが趣向を凝らした展示、動画、劇、イベントなどの様々な催しを行い、生徒や外部の方々が楽しく参加する姿が印象的でした。3Fコモンスペースのステージでは生徒会執行部が司会を担当し、書道や龍踊り披露などのプログラムが行われました。生徒会企画「歌の祭典」においては、生徒に加え、先生方にも歌を披露していただき、大変盛り上がりしました。

今年は気温が高く大変暑い中の開催となりましたが、来校者が非常に多く、生徒の活躍を多くの方に見ていただけたことを大変嬉しく思っております。

● クラス・文化部参加部門

GOLD WEST 賞 2年3組 劇「美女と野獣」
SILVER WEST 賞 1年2組 展示「ピタゴラスイッチ」
 1年6組 パフォーマンス「龍踊り」
特別賞 テクニカルチーム

● ポスター部門

最優秀賞 2年2組
優秀賞 1年4組



佐世保西高等学校 第2回オープンスクール

9月8日(日)に、本校の「第2回オープンスクール」を西高祭の2日目に併せて開催しました。今回は先着100名限定としましたが、地区内外あわせて25の中学校から応募が殺到し、応募開始からわずか1日で定員が埋まってしまいました。

当日は、西高祭のオープニング見学や学校説明会、希望者対象の生徒実行委員による西高祭ツアーを通して、在校生と一緒に西高祭を楽しんでいただきました。

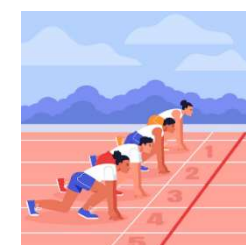
参加者アンケートでは「文化祭を見学して、勉強だけではなく行事にも本気で取り組んで盛り上げている所が佐世保西高校の魅力だと思った。」「文化祭のオープニングを見て、西高生の団結力の強さを感じた。」「行事、部活、勉強と、メリハリをつけて取り組んでいる高校生の姿勢が魅力的だと感じた。」など、ご満足いただけた声が得られました。(教務部)

主な大会の結果

<陸上部>

○令和6年度長崎県高等学校新人体育大会陸上競技

男子 100m 第2位 井手秀悟、男子 400mH 第2位 山野泰知
 男子 4×100mR 第2位 山口凜汰、岩切裕哉、大庭遙、井手秀悟
 男子 4×400mR 第2位 糸山大海、大庭遙、松尾航太郎、山野泰知
 女子 5000mW 第3位 福田実和



<ソフトテニス部>

○令和6年度佐世保地区高等学校新人体育大会ソフトテニス競技

女子個人戦 第2位 末永七海・鬼塚美琴ペア
 男子団体戦 第3位



<ソフトボール部>

○令和6年度長崎県高等学校新人体育大会ソフトボール競技 第3位

<バドミントン部>

令和6年度第21回佐世保地区高等学校選抜バドミントン選手権大会
 男子シングルス 第2位 堤 悠翔



<弓道部>

令和6年度長崎県高等学校佐世保地区新人体育大会弓道競技

男子団体 優勝 澤村倭、北野滉大、増田紘一、田淵涼太郎、野口大輔
 男子個人 優勝 野口大輔

<合唱部>

第38回ながさき“若い芽”のコンサートオーディション 声楽部門 優良賞 川崎和奏

<その他>

高校生アントレプレナーシップゼミ 2024 Summer (最終発表)

優秀賞 株式会社アドミン賞 金子望乃、株式会社サイノウ賞 田嶋侑流

